

『大学 1 年生からのコミュニケーション入門』
インストラクターズ・マニュアル
応用編

中野美香・宮本知加子

福岡工業大学

目次

はじめに	ii
コミュニケーション論Ⅰ 授業概要	1
指導ガイドライン	4
授業日記	33
著者紹介	56

はじめに

本書は、コミュニケーション教育に関心をお持ちの先生を対象に『1年生からのコミュニケーション入門』応用編の副読本として作成したものです。授業に導入する際に指針となる、タイムスケジュールを含めた指導のガイドラインと、教科書だけでは伝えきれない授業全体や学生の雰囲気を書いた授業日記で構成されています。

福岡工業大学工学部電気工学科でのコミュニケーション教育のカリキュラム開発は2007年から始まり、丸5年が経ちました。これまでの成果を踏まえて、本書は2011年9月から2012年2月にかけておこなわれたコミュニケーション論Ⅰの授業を基に作成しました。

コミュニケーション教育はどのような文脈でどのような学生にどのような先生が教えられるかによって内容は大きく変わっていくものと考えます。こういった自由度が高い教育をよりよくするためには、「この授業ではこう教えた」「そうすると学生はこうなった」という日々の丁寧な細やかな知見の蓄積および研究開発が必要不可欠でしょう。

これまでの試みを以下のウェブサイトにもまとめました。今後、コンスタントに研究論文を執筆しながら、社会の様々なニーズに合わせてe-Learningも含めて教育のコンテンツを拡張していく予定です。

コミュニケーション教育のための教授学習支援プログラム

<http://www.commedu.net/>

今後、さらに教育内容を洗練させていくために、興味をもってください先生方や学習者の方々とネットワークを構築していきたいと考えています。ご意見・ご要望等ございましたら、お知らせいただければ幸いです。

2012年2月

中野美香

nakano@fit.ac.jp

コミュニケーション論Ⅱ授業概要

対 象 大学１年生

期 間 半期（後期１５回）

場 所 講義室

使用教材 『大学１年生からのコミュニケーション入門』 中野美香著 ナカニシヤ出版

科目の位置づけ

福岡工業大学工学部電気工学科では、2007 年度入学生からコミュニケーション能力を育成するための講義を開講している。コミュニケーション能力を、自己や他者との議論を通じた対話的思考力およびそれに必要な表現力と捉え、段階的に身に付けられるプログラムとなっている。前期必修科目には、“コミュニケーション論Ⅰ”があり、自分の主張を整理する力を育成している。その後継科目として、“コミュニケーション論Ⅱ”があり、前期に学んだスキルを活かしながら、他者と議論する能力を育成する。また、就職活動を全面的に意識して、授業中の学生の態度や姿勢を修正していく機会とする。

１つの授業あたり、25 名程度の少人数に教員 1 名、TA（ティーチングアシスタント）を 1 名配置して開講されており、学生同士の交流がしやすいものとなっている。

科目のとらえ方

ディベートを用いて、高度なコミュニケーション能力を育成する。

導入期：あるテーマについて自分の主張を整理し、相手に伝えるための基礎スキルを学習する。

発展期：他者の主張を聞き、それを評価するスキル、および自分の主張を比較検討するスキルを学習する。

応用期：自分の主張と他者の主張との相違点を明確にして議論するスキル、他者と円滑に意思疎通を行うコミュニケーションのスキル技術を学習する。

達成目標

- 現在の自分に加えて他者の立場や考えを理解できる。
- 与えられたテーマに関する事柄を必要に応じて自分で調べ、内容を論理的に整理できる。
- 自分の考えを整理して、他者に伝えることができる。さらに、他者の意見を聞いて理解し、自分との相違を明確にして議論できる。

指導上の留意点

- グループ活動では、各グループで協力して行えるよう、指導する。
- 自己理解に関わるような話題の際、言いたくないことを無理に言う必要がないことを保証し、学生の安心感・安全感を保つ。
- 意見交換の際、なかなか入れない学生がいた場合は、教員や TA がサポートしたり、学生同士の批判にならないよう配慮する。

学生観

本クラスは、25 名程度に人数分けされており、すべて男子学生である。もともと女子学生は数名しかおらず、本クラスは男子学生のみである。前期の「コミュニケーション論Ⅰ」と授業の参加者は同じである。前期では、主張の型を学び、多くの学生と意見交換する機会を設けたため、学生同士が話をする素地はできている状態での授業開始となった。

学生たちは、指示に従う真面目な生徒が多い。前期の授業と構成が変わらないため、見知ったもの同士となっているので、グループを作って話をするには、抵抗感が少なく始めることができた。しかし、自分のことを「人見知り」を表現する学生も多く、知らない人には自分から話しかけることができないと考えている学生が数多くいる。前期の「コミュニケーション論Ⅰ」において、誰とでもペアやグループを作って話をするということには慣れてきたが、「反論」「発表」「ディベート」には抵抗感を感じている学生も多く見られた。しかし、「できるようにになりたい」「就職活動で役にたつ」と考える学生は多く、意欲は感じられた。

授業計画 シラバスに掲載の内容

1. コース・イントロダクション
2. 自分の主張を整理し、伝える技術（1）
3. 自分の主張を整理し、伝える技術（2）
4. 他者の意見を聞き、評価する技術（1）
5. 他者の意見を聞き、評価する技術（2）
6. 自分の意見と他者の意見を比較する技術（1）
7. 自分の意見と他者の意見を比較する技術（2）
8. テーマを分析する（1）
9. テーマを分析する（2）
10. 自分の意見と他者の意見をまとめる
11. ディベート実践（1）
12. ディベート実践（2）
13. ディベート実践（3）
14. 授業内容の理解度テストおよび解説のまとめ
15. 試験結果の反省学習

●半期間の主な内容と見通し

内容	回	学習内容・および活動		指導上の留意点		
動機づけ	1	キャリア形成	【個人】ペアで発表 【相互評価】	・授業での実践が，就職活動と密接に関係していることを意識させる。就職への動機づけを行う。		
	2	就職面接の準備	・内容と伝え方を評価させ，他者からどのように見えるのか確認させる。			
	3					
反論	4	他者の意見を聞き，評価する技術	【個人】ペアで発表 ・反論の型を使って，主張を組み立て，グループで発表する	・反論の型を使えるように練習させる。 ・反論に抵抗感がある学生に配慮する。		
	5					
	比較・分析	6	自分の意見と他者の意見を比較する	・比較 ・言葉の定義 ・政策論題の分析 ・価値論題の分析	・学生の理解の程度を確認しながら行うこと。考えるのに時間がかかる学生や，反論に戸惑う学生をフォローする。 ・ペア戦を個人戦に変更してもよい。学生の取り組み方を考慮する。	
		7				
		8				テーマを分析する
		9				
	総括	10	自分の意見と他者の意見をまとめる	【立論・反駁・総括】 ペア戦＋ジャッジ (2人 vs2人)	・「何を言いたいのか」が大事であることを強調する。	
実践		11	ディベートの実践	【ミニ・ディベート】 個人戦＋ジャッジ	・ジャッジ同士で相談はしないこと，評価が分かれても良いことを伝えておく。	
	12					
	13	【ディベート】 グループ戦＋ジャッジ (3人 vs3人)				
	14	試験				
	15	反省学習	【ディベート決勝】 代表チーム 2班 全員でジャッジ	・気持ちよく試合を見ることができるようになる。		

指導ガイドライン

第1回：コース・イントロダクション

本時の目標

- キャリアに対する考え方を理解する。
- キャリアには、10の段階があることを理解する。
- キャリア・アンカーの種類を知り、自分がどのキャリア・アンカーを重視しているのかを説明できる。

準備物

テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
20 分	導入 ガイダンス	●コースの紹介を行う。 コースの目的、授業の構成、試験と単位について、受講者に望むことを明確に示す。	・就職、就職活動を見据えて、大学生活を送ることが大切であることを伝える。 ・前期の内容を踏まえて、後期に身に付けていく力を説明する。
35 分	講義	●キャリアとは？ キャリアの言葉の意味、キャリアの段階について説明。大学生である自分の立ち位置を理解する。 ●キャリア・アンカー 人によって、キャリアで重視するものが違うことを説明。	【テキスト p.34】 ・キャリアには段階があり、これから歩いていく道のりをイメージさせる。 ・人によって価値観が違うことを説明。
50 分	演習	●自己診断 自分のキャリア・アンカーについて、5段階で自己診断する。 ●他者診断 ペアを作り、パートナーが重視しているように見えるアンカーを5段階で診断する。 ●振り返り 自己評価と他者評価を比較して、考えたことをテキストに記入する。	【テキスト p.90】 ・ペアはくじを用いる。ペアを作るときに配慮が必要な学生がいる場合は、近くの学生同士で組ませる。

80 分	講義	●客観評価 自己診断用キャリア指向質問票を回答。 診断 ●振り返り 評価の差について考える。	【プリント】 ・自己診断や他者診断との違いを考えさせる。
90 分	まとめ	●全体シェアリング 感じたこと、考えたことを共有 ●キャリア・アンカーについて これから変化することを説明	・一つに固執したり、変化しないようにしようと思わなくていいことを説明。人によって、重視することが違っていいことを保証しておく。

【コースの目的】

ディベートを用いて、高度なコミュニケーション能力を育成する。

導入期：あるテーマについて自分の主張を整理し、相手に伝えるための基礎スキルを学習する。

発展期：他者の主張を聞き、それを評価するスキル、および自分の主張を比較検討するスキルを学習する。

応用期：自分の主張と他者の主張との相違点を明確にして議論するスキル、他者と円滑に意思疎通を行うコミュニケーションスキル技術を学習する。

第2回：就職面接の準備①

本時の目標

- 就職活動の採用までのステップを理解する。
- グループ面接には種類があることを理解し、実践できる。
- 自己分析を実践し、強みと弱みを5つずつ書くことができる。

準備物

テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10 分	導入 講義	●本日の流れの説明 ●前回の振り返り キャリアについて	・前回のキャリアの話 を振り返りながら、具 体的に就職活動を意識 させる。
30 分	講義	●採用までのステップ 就職活動の流れについて説明 ●グループ面接と個人面接 面接にも種類があることを説明し、グループ面接で は、どのような力が必要なのかを説明する。 ●企業が新卒者に求める能力 コミュニケーション能力が8年連続一位であることを データをを用いて説明。 ●自己分析 就職活動において、重要なカギとなることを説明	【テキスト p.36】 ・就職活動についてイ メージが広がるよう に、活動時期と合わせ て説明する。 ・この授業を通して、 新卒者に求められてい る能力がコミュニケー ション能力であり、グ ループ面接での力を身 に付けることができる ことを説明し、学生の モチベーションを高め る。
50 分	演習 【個人】	●自己分析 自分の強みと弱みを分析 ・コミュニケーション能力について ・学業について ・その他	【テキスト p.92】 ・それぞれ5つずつ挙 げるよう指示
60 分	演習 【4人】	●自己分析した内容をグループで発表 ●自分の書いた内容とメンバーが書いた内容を比べて、 気づいた点を記入。	【テキスト p.92】 ・言いたくないことは、 すべて言わなくてもい いことを保証する。

80 分	演習 【個人】	●今後の対策について考える。 ・コミュニケーション能力について ・学業について ・その他	【テキスト p.93】 ・それぞれの力を伸ばすために、どのようにしたらいいのか、後期の過ごし方も含めて考えさせる。
90 分	まとめ	●全体で共有 今後の対策について考えたことを発表する。 ・自分が考えたことを 1 つ発表	・友達の目標を聞かせることによって、それぞれがイメージするなりたい姿をイメージさせる。

第3回：就職面接の準備②

- 本時の目標**
- 就職試験には、4つの形式のグループ面接があり、それぞれの特徴を理解する。
 - ディスカッションでは、その人の人間性が表れることを理解する。
 - 自分の主張を整理して発表し、他者の意見を理解することができる。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10 分	導入 講義	●本日の流れの説明 ●前回の振り返り 自己分析について	・それぞれが考えた強み・弱みについて、振り返る。
20 分	講義	●就職面接でコミュニケーション能力が重視される理由 ・企業での意思決定について説明 ・自分と異なる価値観や文化を持っている人と一緒に働き、意思決定が必要であることを説明	【テキスト p.38】 ・前期に取り上げた文化について話をしながら、学生にイメージさせる。
30 分	講義	●ディスカッションの出題形式 4種類の出題形式と、どのような力が求められているのかを説明。 ① 自由討論 ② インバスケッ ③ ケーススタディ ④ ディベート ●ディスカッションの評価方法 ① 発言内容 ② 発言方法	【テキスト p.38】 ・4つの違いが分かるように例題を挙げながら説明する。 ・どのような力が必要かを考えさせる。 ・何を評価されるのかをしっかりと頭に入れさせる。
	演習 【個人】 →【ペア】	自由討論 テーマ：「仕事に必要な能力について」 ① 主張の作成 ② 発表と評価 ③ 評価の交換…パートナーに評価を伝える ④ 振り返り…自由討論に必要なスキルを分析	【テキスト p.94】 ・ペアになって、主張を伝え合う。聞く側の人には、面接官になったつもりで話を聞かせ、内容と伝え方のそれぞれについて、評価

50 分		※パートナーを採用したいと感じたか、不採用なのかを決め、その理由を伝える。 ●パートナーのからの評価と自分の反省を記入	をさせる。
70 分	演習 【個人】 →【ペア】	インバスケット テーマ：「あなたは無人島に 1 週間 1 人で滞在することになりました。ピストル・本・犬・筆記用具・ゲームのうち、持っていきたいものを 3 つ選び、優先順位とその理由を述べなさい」 ① 主張の作成 ② 発表と評価 ③ 評価の交換…パートナーに評価を伝える ④ 振り返り…インバスケットに必要なスキルを分析 ※パートナーを採用したいと感じたか、不採用なのかを決め、その理由を伝える。 ●パートナーのからの評価と自分の反省を記入。	【テキスト p.94】 ・自由な発想を楽しみながら行わせる。 ・ペアになって、主張を伝え合う。聞く側の人には、面接官になったつもりで話を聞かせ、内容と伝え方のそれぞれについて、評価をさせる。
90 分	まとめ	●面接の練習をして、自分に必要な対策を考え、ワークシートに記入する。 ・伝え方 ・内容 ・その他 ●全体で共有	【テキスト p.95】 ・どちらのテーマも様々な考えが出てくるものなので、全体で共有すると、様々な意見が出て面白い。 ・話をまとめる際には、就職活動を意識させ、授業中の学生の態度や姿勢にも目を向けさせる。

第4回：他者の意見を聞き、評価する技術①

本時の目標

- 反論の重要性を理解することができる。
- 反論の5つの型を暗唱することができる。
- 反論の型を使って、相手に反論を伝えることができる。

準備物

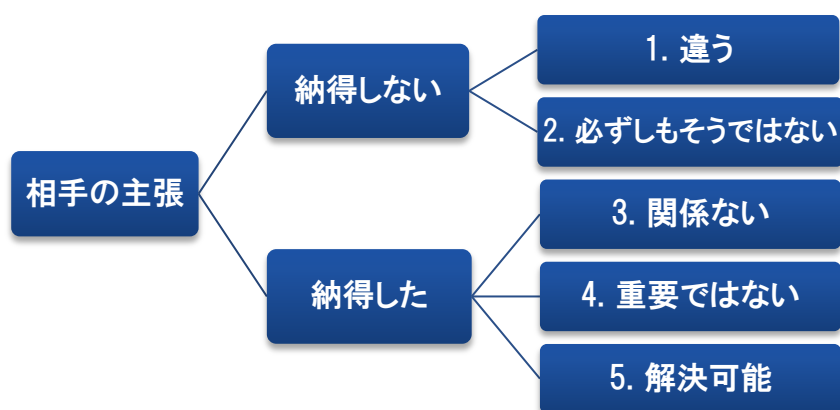
テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入 講義	●本日の流れの説明 ●反論についてのイメージを尋ねる	・反論についてのイメージや印象を聞くことによって、大学生が感じている議論のイメージを把握する。
35分	講義	●反論とは何か？ 反論の重要性 ・定義 ●反論の重要性 理由 ①相手の主張を正しく理解するため ②自分の主張の説得力を高めるため ●反論の型 反論を考える枠組みとして5つの型が役立つことを説明 ① そうではない ② 必ずしもそうではない ③ 関係ない ④ 重要ではない ⑤ 解決可能 ●反論の型について暗記タイム（2分） →答え合わせ	【テキスト p.40】 ・反論とは何かをはっきりと示しておくこと。反論に対する嫌なイメージを持っている学生も存在するので、重要性をはじめに伝えておくことは大切。 ・反論の型 5つをその場で暗記させる。
	演習 【個人】 →【4人】	●論題「猫は犬よりもよい」に関する①～⑤の主張に対して反論を考える ●グループで発表 どのような理由を考えたのか、お互いに発表しあう	【テキスト p.96】 ・お互いに見せ合うことによって、反論の幅が広がる。

55 分		●全体で共有 各グループから出た意見を発表	
65 分	演習 【個人】 →【ペア】	●論題：「大学生はアルバイトをすべき」について反論を想定して，主張を組み立てる。 ●ペアで発表 相手の主張を聞くときは，メモを取ることを説明	【テキスト p.97】 ・賛成と反対に分かれ，自分の担当の主張を組み立てる。
80 分	演習 【個人】 →【ペア】	●反論を考える 相手の主張に対して，反論を考える。 ●ペアで発表	・反論の型をもう一度確認し，考えさせる。
90 分	まとめ	●全体で共有	・どのような反論をしたのか，発表してもらい，全体で確認する。

■反論の型



第5回：他者の意見を聞き，評価する技術②

- 本時の目標**
- 反論する時に，相手への配慮を忘れずに伝えることができる。
 - 反論のモデルを暗唱することができる。
 - 反論のモデルを使い，反論を伝えることができる。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10 分	導入 講義	●本日の流れの説明 ●前回の振り返り 反論をやってみての感想を取り上げる ・面白かったこと ・難しかったこと ・抵抗感 →それぞれがたくさんの感想を持っていることを伝えつつ，反論の重要性を説明	・反論に抵抗感のある学生がいるため，学生が感じた感想を取り上げる。 ・プラスの印象・マイナスの印象のそれぞれを取り上げる。 ・反論の重要性を再認識させる。
30 分	講義	●反論されることは悪いことではない 伝え方・相手への配慮 ●反論の考え方を説明 ●反論のモデル 反論の伝え方のモデルを説明 ① 引用 ② 主張 ③ 理由 ④ 例・データ ⑤ 結論 ●反論のモデルについて暗記タイム（2 分） →答え合わせ	【テキスト p.42】 ・反論に対して，悪いイメージを持っている学生もいるため，そのように感じている学生も複数いることを保証しておく。その上で，反論の考え方について説明し，学生の抵抗感を小さくする。 ・反論のモデルをその場で暗記させる。
	演習	●論題：「動物園を廃止すべき」について，賛成側と反対側の理由をできるだけたくさん挙げ，ワークシートに記入	【テキスト p.98】 ・できるだけたくさん挙げるよう指示。量を

45 分		●全体で共有 どのような理由を考えたかを発表させ, どのような視点があるのか共有する。	強調する。 ・様々な視点があることを理解させる。
80 分	演習 ■ペア 賛成 2 人 反対 2 人	●論題：「動物園を廃止すべき」について, 賛成側と反対側に分かれて主張する。 ●グループ分け…2 人 1 組 賛賛 VS 反反 1) 賛成側と反対側に分ける 2) ペアで主張を組み立てる (①賛成側②反対側) 3) 主張をそれぞれ発表 4) ペアで反論を組み立てる 5) 反論をそれぞれ発表 (①賛成側②反対側)	【テキスト p.99】 ・賛成側か反対側かは, こちらが指定する。どちらがやりやすいという理由で選ばせないようにする。 ・反論の型を確認しながら, 考えさせる。教科書の内容を確認させる。
90 分	まとめ	●全体で考えを共有する。 代表グループの発表	【テキスト p.98】 ・どのような反論をしたのか, 発表してもらい, 全体で確認する。

■反論のモデル

段階①	引用	彼らは「～」と言いました。
段階②	主張	しかし, 「反論の型」
段階③	理由	なぜなら～
段階④	例・データ	たとえば～
段階⑤	結論	したがって～

第6回：自分の意見と他者の意見を比較する①

- 本時の目標**
- 比較には、様々な基準があり、基準の中にも優先順位があることを理解する。
 - ものごとの比較を通して、自分の価値観に気付くことができる。
 - 自分の主張を整理して発表し、他者の意見を理解することができる。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10 分	導入 講義	●本日の流れの説明 ●前回の講義の振り返り 反論についての感想を取り上げる。	・学生が、反論に手ごたえを感じているところを取り上げる。 ・反論の重要性を再認識させる。
30 分	講義	●比較するとは？ ●比較の基準 ●基準の優劣 ●比較の根底にある価値観	【テキスト p.44】 ・身近なものを取り上げて、学生にとって比較しやすいようにする。
75 分	演習 【個人】 →【4 人】	●家を選ぶときの、好ましい条件と好ましくない条件について、自分の考えをワークシートに記入 ●グループで発表 ●優先順位の高いものから 5 つ挙げる。 ●グループで発表 ●なぜ重要なのか、その理由を考える。 どのような価値観を持っているのか考える。 ●グループで発表 ●他の人の発表を聞いて考えたことを記入する。	【テキスト p.100】 ・とにかくたくさんの条件を挙げるように指示する。 ・どんな条件があるのか共有し、イメージを広げる。 ・他者との価値観の違いに気付かせた上で、自分の価値観に気付かせる。

90 分	まとめ	●全体で考えを共有する。 グループ内で出た意見を，発表する。	【テキスト p.101】 ・他者の多様な価値観に触れさせる。 ・いろいろな価値観を認め，個人が否定されないよう配慮する。
------	-----	--	--

第7回：自分の意見と他者の意見を比較する②

- 本時の目標**
- 定義は、物事の意味・内容を区別するために行うことを理解する。
 - ブレーストーミングを実践し、様々なアイディアを出し合うことができる。
 - 自分の主張を整理して発表し、他者の意見を理解することができる。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10 分	導入 講義	●本日の流れの説明 ●振り返り 前回の比較についての感想を取り上げる	・様々な価値観があることを支持。 ・比較には、価値観が反映されていることを説明。
20 分	講義	●言葉を定義するとは？ ●議論と定義 ●定義の方法	【テキスト p.46】 ・具体的な例を出しながら説明する。
60 分	演習	●論題「大学生は勉強をするべきだ」についてブレーストーミングしましょう。メリットとデメリットをできるだけたくさん考える。 ●発表 →1 人1 つずつ、前に出た内容以外のものを答えさせる。たくさん挙げることで、イメージを広げる。 ●論題「大学生は勉強するべきだ」の目的をできるだけたくさん考える。 ●この論題に含まれる対象を考える。 ●定義を考える ・ 大学生とは？ ・ 勉強するとは？	【テキスト p.102】 ・机間巡視しながら、イメージが広がりにくい学生には、ヒントを出し、自分で書けるようにする。 ・ブレーストーミングでは、内容の質よりも量が必要なことを強調し、どんなに簡単なことでもいいので記述させるようにする。
	演習 ■ペア 賛成 2 人 反対 2 人	●賛成側と反対側に分かれて、自分の主張を考える。 ●  VS   ●グループで発表	【テキスト p.103】 ・賛成側か反対側かは、こちらが指定する。どちらがやりやすいという理由で選ばせないようにする。

80 分	発展演習	●反論を考えさせる ●発表 ●定義を行った後に主張を作ってみて、考えたことを記入する。	・反論を復習させる。出てきた主張に対して反論を考えさせる。 ・これまでとの違いを考えさせる。
90 分	まとめ	●全体で考えを共有する。 ・主張の発表 ・定義してみての感想 ●フィードバック ・定義を行った時と、行っていない時の違いをフィードバックする。	・これまでは、自分なりに定義して考えていた学生もいれば、全く意識していなかった学生もいる。定義をすることで、より論点が明確になることをしっかりと伝えることが大事。学生にしっかりと意識化させるようにする。

第8回：テーマを分析する①

本時の目標

- 政策論題における比較には，現状とプラン後の2つがあることを理解する。
- メリット・デメリットや目的を考えると議論の方向性が決まり，個々の比較検証を積み重ねて結論を出すことを理解する。
- 自分の主張を整理して発表し，他者の意見を理解することができる。

準備物

テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10 分	導入 講義	●本日の流れの説明 ●ディベートにおける論題の説明 ① 政策論題 ② 価値論題 ③ 事実論題	・論題の説明は，前期に行っているのので，その復習を行う。
30 分	講義	●政策論題における比較とは？ ・現状とプラン後を比較する ・目的 ・メリット，デメリット	【テキスト p.48】 ・具体例を用いて説明をする。
50 分	演習	●論題「座席指定にした方がよい」について分析する。現状とプラン後のメリット・デメリットを考える。 ●論題の目的を考える。 ●論題に含まれる対象を考える。 ●賛成側と反対側の理由を考える。	【テキスト p.104】 ・メリットとデメリットを考えさせた後，学生に発表させ，イメージを膨らませる。
	演習 ■ペア戦 賛成 2 人 反対 2 人	●論題「座席指定にした方がよい」について，賛成側と反対側に分かれて，主張する。 ●グループ分け…2 人 1 組  1) 賛成側と反対側に分ける 2) ペアで主張を組み立てる・作戦タイム	【テキスト p.105】 ・賛成側か反対側かは，こちらが指定する。どちらがやりやすいという理由で選ばせないようにする。

80 分		3) 主張をそれぞれ発表 (①賛成側, ②反対側) 4) ペアで反論を組み立てる 5) 反論をそれぞれ発表 (①賛成側, ②反対側)	・発表するときは, 必ず, 主張と反論のどちらかを担当させる。 (同じ人が行わない)
90 分	まとめ	●代表グループの発表 ●フィードバック	・発表を聞いてよかったところをフィードバックしていく。できているところを伝え返す。

第9回：テーマを分析する②

本時の目標

- 価値論題では、様々な比較が必要であることを理解する。
- 価値判断の基準となる価値観を見極めることが重要であることを理解する。
- 自分の主張を整理して発表し、他者の意見を理解することができる。

準備物

テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10 分	導入 講義	●本日の流れの説明 ●論題の確認 3つの論題（政策論題、価値論題、事実論題） 前回行った政策論題を分析する際に、何を比べていたかを思い出させる。	・3つの論題の違いについて思い出させる。 ・価値論題との違いを理解させるために、政策論題の比較についてもう一度復習する。
25 分	講義	●価値論題の比較とは？ ・状況の比較 ・誰にとって？ ・目的 ・メリット、デメリット ・価値観について	【テキスト p.50】 ・具体例を用いて説明する。
50 分	演習	●論題「塾は家庭教師よりよい」について分析する。 メリット・デメリットについて考える。 ●論題の目的を考える。 ●論題に含まれる対象を考える。 ●賛成側と反対側の理由を考える。	【テキスト p.106】 ・イメージを膨らませるために、考えが出にくい時には発表させる。
	演習 ■ペア戦 賛成 2 人 反対 2 人	●論題「塾は家庭教師よりよい」について、賛成側と反対側に分かれて、主張する。 ●グループ分け…2 人 1 組 賛賛 VS 反反	【テキスト p.107】 ・賛成側か反対側かは、こちらが指定する。どちらがやりやすいという理由で選ばせないようにする。

80 分		1) 賛成側と反対側に分ける 2) ペアで主張を組み立てる・作戦タイム 3) 主張をそれぞれ発表 (①賛成側, ②反対側) 4) ペアで反論を組み立てる 5) 反論をそれぞれ発表 (①賛成側, ②反対側)	・発表するときは, 必ず, 主張と反論のどちらかを担当させる。 (同じ人が行わない)
90 分	まとめ	●代表グループの発表 ●フィードバック 発表の良かった点, 他に出てきた視点についてフィードバックする。	・発表を聞いてよかったところをフィードバックしていく。できているところを伝え返す。

第 10 回：自分の意見と他者の意見をまとめる

本時の目標

- 総括の重要性を理解する。
- 総括を見通して主張を作成することを理解する。
- 総括のモデルを使い、総括を伝えることができる。

準備物

テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10 分	導入 講義	●本日の流れの説明 ●分析についての振り返り	・これまでの演習で議論スキルが身につけていることを説明する。今後のディベートの実施への期待を伝えておく。
25 分	講義	●総括について説明 ・総括の機能 ・総括の方法 ① 再反論 ② 整理・比較 ③ 優位性を示す ④ 結論 ・総括の考え方	【テキスト p.52】 ・これまでに使ってきたように、総括のモデルを使ってまとめができるようになるよう指導する。 ・「何を言いたいのか」を主張できるようになることをしっかりと伝える。
	演習 ■ペア戦 賛成 2 人 反対 2 人 ジャッジ 4 人	●論題「高校の制服を廃止すべき」について、主張を組み立てる。 ●グループ分け…2 人 1 組（1 グループ 8 人） 賛 賛 VS 反 反 シ シ シ シ 1) 賛成側と反対側に分ける 2) ペアで主張を組み立てる・作戦タイム 3) 主張をそれぞれ発表（①賛成側，②反対側） 4) ペアで反論を組み立てる（3分） 5) 反論をそれぞれ発表（①賛成側，②反対側） 6) ペアで総括を組み立てる（3分）	【テキスト p.108】 ・賛成側か反対側かは、こちらが指定する。どちらがやりやすいという理由で選ばせないようにする。 ・発表は必ずどちらかを担当させる。主張と総括担当と、反論の担当に分ける。 ・2 人×2 人の試合を 4 人のジャッジが判定する。試合が終わった

80 分		7) 総括を発表 (①反対側, ②賛成側) ●ジャッジから評価とコメント どちらが勝ったと思ったか, その根拠について, それぞれから発表。 【ジャッジの評価項目】 内 容 ①主張がはっきりしていた ②理由の説明がわかりやすかった ③例やデータが適切だった ④構成がまとまっていた ⑤興味深かった 伝え方 ①声の大きさ ②話す速さ ③声の高低 ④間の使い方 ⑤アイコンタクト ●交代 ジャッジをしていた 2 組のペア 4 人が, 賛成と反対に分かれて試合を行う。 試合が終わったペアは, ジャッジを行う。	ら, 交代。 ・ジャッジ同士で相談はしないこと, 評価が分かれても良いことを伝えておく。 ・ジャッジがコメントをするときには, ①ねぎらう→②よかった点→③改善点の順で伝えるとよい。
90 分	まとめ	●総括をしてみたの感想 ジャッジをしてみたの感想を聞く ●フィードバック 学生が感じた難しさや抵抗感を拾い上げ, どのような考え方で取り組んだらいいのかを伝え返す。	・他者の評価について, 抵抗を感じていないのか, 確認をする。 ・できていることを伝え返す。

■総括のモデル

段階①	再反論する	相手は～と反論したがそうではありません。なぜならば…
段階②	整理・比較	賛成側の主張は～だった。反対側の主張は～だった。
段階③	優位性を示す	～の点では賛成側の主張の方が優っている。
段階④	結論	したがって, 論題～について賛成です。

評価シート

●個人得点

賛成側（ 班）

役割	担当者	評価項目	点数	コメント
主張		内容	/5	
		伝え方	/5	
反論		内容	/5	
		伝え方	/5	
総括		内容	/5	
		伝え方	/5	
		合計点	/30	※内容，伝え方各 5 点満点で点数をつける

反対側（ 班）

役割	担当者	評価項目	点数	コメント
主張		内容	/5	
		伝え方	/5	
反論		内容	/5	
		伝え方	/5	
総括		内容	/5	
		伝え方	/5	
		合計点	/30	※内容，伝え方各 5 点満点で点数をつける

●判定結果

〔賛成側の勝ち・反対側の勝ち〕

※いずれかに○をつける

判定理由：

評価項目

内容

- ① 主張がはっきりしていた
- ② 理由の説明が分かりやすかった
- ③ 例やデータが適切だった
- ④ 構成がまとまっていた
- ⑤ 興味深かった

伝え方

- ① 声の大きさ
- ② 話す速さ
- ③ 声の高低
- ④ 間の使い方
- ⑤ アイコンタクト

1点 改善が必要
3点 ふつう
5点 とてもよい

第 11 回：ディベートの実践①

- 本時の目標**
- ディベートの試合の形式、進め方について理解する。
 - ディベートのスピーカーの役割を理解する。
 - チームで協力し、説得力のある議論を行う。

準備物 テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10 分	導入 講義	●本日の流れの説明 ●これまでの授業の振り返り	・学生の伸びを評価し伝えること。
25 分	講義	●ディベートについて説明 ・試合の形式 ・スピーカーの役割 ・試合の始め方・進め方 ・説得力のある議論をするために	【テキスト p.54～】 ・試合の方法を説明し、今後の試合を想定させた授業とする。
	演習 ■個人戦 賛成 1 人 反対 1 人 ジャッジ 2 人	●ディベートの実践 論題「大学生は制服を着るべき」 ●グループ分け  VS    1) 賛成側と反対側に分ける 2) 主張を組み立てる・作戦タイム 3) 主張をそれぞれ発表 (①賛成側, ②反対側) 4) 反論の組み立てる (3分) 5) 反論をそれぞれ発表 (①賛成側, ②反対側) 6) 総括を組み立てる (3分) 7) 総括を発表 (①反対側, ②賛成側) ●ジャッジから評価とコメント 個人評価をつけさせる 評価の根拠を伝える	【テキスト p.110】 ・個人で主張から総括までをすべて一人で行わせる。 ・ジャッジ同士で相談はしないこと、評価が分かれても良いことを伝えておく。 ・組み立ての時間が足りないと感じる学生はいると思うが、時間内で行わせる。

70 分		●交代 ジャッジをしていた 2 人が、賛成と反対に分かれて試合を行う。 試合が終わった 2 人は、ジャッジを行う。	
80 分	まとめ	●フィードバック 学生のディベートの様子や、伝え方の良かったところを伝え返す。	・学生の良かったところを積極的に伝え、ディベート大会のモチベーションを高める。
90 分		●課題の提示（次回からのディベート大会で使用） 論題：「日本はすべての乗用自動車を電気自動車に切り替えるべきである」 *乗用自動車とは、主に人の移動に使用される定員 10 人以下の自動車とする。 *電気自動車とは、二次電池、太陽電池、燃料電池からの電気のみを動力源とする自動車とする。 ・自分の主張の根拠となる資料を調べてくるように指示	・学生にディベートで使用する論題を提示し、必要な情報をリサーチしてくるよう指示する。 ・賛成側と反対側の主張の組み立てができるプリントを用意し、主張の組み立ての練習をさせる。

第12回：ディベートの実践②

- 本時の目標**
- ディベートでは、相手チームではなく聴衆とジャッジを説得することを理解する。
 - フローシートの使い方を理解し、フローシートを使うことができる。
 - チームで協力してディベートを実践できる。

準備物 テキスト、プリント

内容

時間	内 容		指導・支援
10 分	導入	●ディベート大会の流れについて説明 ・グループ作り，顔合わせ ・試合準備 ・ディベート大会予選① ・ディベート大会予選② ●確認事項 ・質疑応答について ・フローシートの使い方 ・話し方 ・審判の方法	・試合の流れと確認事項をしっかりと説明しておくこと。 ・前に立ったら，聴衆に聞こえるように大きな声で，はっきりと話すこと，聴衆を見て話すことを伝えておく。 ・ジャッジ同士で相談はしないこと，評価が分かれても良いことを伝えておく。
25 分	演習	●グループ作り 3 人グループを作る（もしくは 2 人） ●試合準備 主張・反駁・総括：担当決め ディベート作戦準備（10 分）	・グループは無作為にくじで決める。 ・2 人グループの場合は，主張担当者に総括を担当させる。
	演習 ■グループ戦 賛成 3 人 反対 3 人 ジャッジ 6 人	●ディベート大会 議論「日本はすべての乗用自動車を電気自動車に切り替えるべきである」 *乗用自動車とは，主に人の移動に使用される定員 10 人以下の自動車とする。 *電気自動車とは，二次電池，太陽電池，燃料電池からの電気のみを動力源とする自動車とする。	【プリント】 ・フローシートを使い，ジャッジもディベートの流れをつかむようにする。 ・評価表に個人の点数と勝敗の判定をさせる。

85 分		●予選① *タイムテーブルは下記参照 ●ジャッジからの評価（5 分） ●予選② 予選①と同様の流れ	・時間通りに進めること。
90 分	まとめ	●フィードバック ディベートをやってみての感想を聞く。	・リサーチの必要性など、実際に行ってみて気づけた点を取り上げ、次回の予習に繋げる。

■タイムテーブル

順番	賛成側	反対側	時間
①	立論		3 分
②		立論	3 分
③	質疑応答・作戦タイム		3 分
④	反駁		3 分
⑤		反駁	3 分
⑥	作戦タイム		3 分
⑦		総括	3 分
⑧	総括		3 分

■フローシート

	賛成側 立論	反対側 立論	賛成側 反駁	反対側 反駁	反対側 総括	賛成側 総括
賛成側の論点						
反対側の論点						
	①	②	③	④	⑤	⑥

第13回：ディベートの実践③

本時の目標

- ディベートの方法を理解する。
- ディベートを通して、高度な能力を身に付けることができることを理解する。
- 自分の考えを整理し、伝えることができる。

準備物

テキスト

内容

時間	内 容		指導・支援
10 分	導入 講義	●本日の流れの説明 ●学生の感想を取り上げる ●確認事項 ・質疑応答 ・フローシート ・話し方 ・審判の方法	・学生が実際にしてみ て感じたことを取り上 げる。 ・ジャッジ同士で相談 はしないこと、評価が 分かれても良いことを 伝えておく。
20 分	演習	●試合準備 ・主張・反駁・総括：担当決め ・ディベート作戦準備	・グループでの一貫性 が重要であることを伝 える。
80 分	演習 ■グループ 戦 賛成 3 人 反対 3 人 ジャッジ 6 人	●ディベート大会 議論「日本はすべての乗用自動車を電気自動車に切り替 えるべきである」 *乗用自動車とは、主に人の移動に使用される定員 10 人以下の自動車とする。 *電気自動車とは、二次電池、太陽電池、燃料電池から の電気のみを動力源とする自動車とする。 ●予選① *タイムテーブルは下記参照 ●ジャッジからの評価（5 分） ●予選② 予選①と同様の流れ	【テキスト p.58】 ・時間通りに進めるこ と。 ・ジャッジの評価での コメントでは、その根 拠を述べるようにする こと。

90 分	まとめ	●フィードバック ディベートをやってみての感想を聞く。	・ 学生が実践から学んでいることを伝え返す。
------	-----	--------------------------------	------------------------

■タイムテーブル

順番	賛成側	反対側	時間
①	立論		3 分
②		立論	3 分
③	質疑応答・作戦タイム		3 分
④	反駁		3 分
⑤		反駁	3 分
⑥	作戦タイム		3 分
⑦		総括	3 分
⑧	総括		3 分

第14回：定期試験

本時の目標

- コミュニケーションについての理解を確認する。
- 自分の考えを整理し，主張の型に沿って主張を組み立てることができる。
- 反論の型を使って，主張を組み立てることができる。

内容

時間	内 容		指導・支援
10分	導入	●試験の説明	
70分	試験	●筆記試験	・論述試験 与えられた論題に対して，主張と反論を論述。
90分	まとめ	●アンケート	

第15回：反省学習

本時の目標	●自分の主張を整理して発表し、他者の意見を理解することができる。
	●ディベートに参加し、適切な相互評価ができる。
	●これまでの学習を振り返り、自分の変化に気付く。

内容

時間	内 容		指導・支援
20 分	導入	●試験の結果について ●決勝チームの試合準備とジャッジの評価方法の確認	・学生がよくできていたところを認める。また、より理解してほしいところを補足説明。
75 分	演習	●ディベート決勝 決勝チームのディベート ＊タイムテーブルは下記参照 ●ジャッジからの評価 評価の根拠を発表させる ●成績発表	・決勝チームが前で発表しやすい環境を整える。 ・負けたチームの良かったところも評価し、みんなで決勝チームを労う。
90 分	まとめ	●学習の振り返り これまでの学習を通して、学生に身に付けてほしいことを話す。 ●まとめと来年の授業について説明	・学生が出来るようになったところを言語化し、伝える。 ・後継科目「プレゼンテーション」の予告をする。

■タイムテーブル

順番	賛成側	反対側	時間
①	立論		3 分
②		立論	3 分
③	質疑応答・作戦タイム		3 分
④	反駁		3 分
⑤		反駁	3 分
⑥	作戦タイム		3 分
⑦		総括	3 分
⑧	総括		3 分

授業日記

2011.9.29.

「後期開始」

今日は、コミュニケーション論Ⅱの講義初日でした。

講義初日といっても、「コミュニケーション論Ⅰ」のメンバーと変わりませんから、どちらかというところ、「久しぶり」といった感じでした。

学生を見てみると、前期にそれぞれの授業を取得し、夏休みを経て…
少し大人になったような気がしました。

“慣れ”と言ってしまうと、何だかただ時間に流されているような感じがしますよね。
大学生活を半年乗り切って、“大学生らしい落ち着き”というべきでしょうか。
ちょっと大人になった表情を見せてくれたような気がします。

さて、講義はというと、“久しぶり”にみんなの元気そうな顔を見ると嬉しくなりますね。
表情を見ていけば、元気にしていたんだなあというのも分かりますし、
日に焼けたなあとか、
髪型が変わったなあとか、
雰囲気が変わったなあとか、
少しずつでも、それぞれに変化があったようです。

コミュニケーション論Ⅱの授業はこれからですが、メンバーも教員も変わりませんから、
新鮮さに欠けるかもしれない…と感じました。

そこで、席替えをしました。

がらっと、雰囲気が一新しました。
やはり環境の影響は大きいですね。

面白かったのは、私の提案を
1組2組がそれぞれ違う方を選んだこと。

私の提案は、

- ① くじで席を決め、そのまま指定席にすること。
- ② 指定された列の中で、自由席とすること。 の2つでした。

すると、2組は①を、1組は②を選びました。

これから，どのような環境になっていくのか楽しみです。

そして，学生に後期の目標を尋ねると，
「反論ができるようになりたい」
と書いている人が多かったです。

反論というと，抵抗がある人もいるようですが，できるようになりたい気持ちも伝わってきました。

みんなで活発な議論をできるよう，
頑張っていきましょう！

「就職活動の準備」

今日は、就職活動について話をしました。
やっと、大学に入って半期が過ぎ…というところですが。
社会からどのような能力を持った人が求められているのか、
採用まではどのようなステップがあるのかを知ってもらいました。

就職活動に関する情報は、
身近に経験した人がいる人はよく知っていることもありますが、
初めて聞いたという人もいます。
就職に関する話は、よく聞いており、関心の高さが窺えます。

さて、企業が新卒者に求める能力の第一位は、
8年連続で、「コミュニケーション能力」です。
続いて、主体性、協調性、チャレンジ精神、誠実性と続き、この順位は前年と変化ありません。
学生も、真剣に聞いていました。

そして、自己分析の一環として、「自分の強みと弱み」について、聞きました。
始めて行う学生にとって、難しいみたいですね。

学生の感想には、

- ▶ まだ自分のことをあんまり知らないことに気付いた。自分のことを知らないと、面接でもアピールできないので、とてももったいないことだと思った。自己分析はとても大切だと思った。
- ▶ 目標を達成するためには、当たり前のことをしっかりやることが大切なんだと思いました。
- ▶ あまり自分の強みや弱みを考えたことがなかったので悩んだけど、自分を知る事によって、目標が出来たのでよかった。

と、自己分析の必要性を感じてくれたようです。

まだ1年生なのですが、今後の見通しを持って学生生活を送ることは、とても大切なことだと思います。
私も、学生に今後のことも含めて、伝えていかなければと思っています。

そして、必要性を理解してくれると、学生自身もしっかりとついてきてくれるなど、実感を持ちました。

「仕事に必要な能力」

就職ガイダンスを見学してきた話を学生にしました。

就職ガイダンスは、3年生向けに就職課が行っているものです。

まず、就職活動の流れや手続きの説明があり、

就職が決まった4年生が体験談を発表し、

その後、小グループに分かれて1人の4年生を囲んで質問をしながら話を進めるという流れでした。

3年生にとっては、就職活動を目の前にして、とても大事な情報ばかりです。

4年生を前にして、何から質問したらいいのか…と戸惑っている姿も見えました。

4年生は、自分の体験から感じたこと、学んだことを活き活きと話していました。

あまり質問できない3年生を気遣ってあげたり、指名したり、場をリードしていました。

まさに、

「経験は強い」と感じました。

自分の経験したことは、実感を伴って話すことができます。

何かの受け売りではなく、一般的な常識ではなく、

自分の言葉で自分の感じた通りに伝えているから、3年生にも言葉が届くんでしょうね。

もちろん、一人の体験談が就職活動のすべてではないことは本人も周りも理解しています。

それでも、一人の体験談がここに響くものがある、届くものがある。

そこには、「体験があるから」。

自分の身を心を投入して、得たものがあるから言えることがあるのでしょう。

そこにいた4年生たちは、自分の就職先を勝ち取った人たちでした。

決して、全員が第一志望に受かったわけではなく、

本人なりに苦労して、あきらめたり、あがいたりしながら、選択を迫られた学生たちです。

たとえ第一志望じゃなくても、

「そこで働く」と自分で選択し、勝ち取った学生だから、

活き活きと話を進めることができたのだらうと思います。

随分と3年生と4年生に年の差があるように見えました。

けれど、それは3年生が幼いのではなく、
4年生が成長したのだと思います。

そんなことを1年生に話したら、真剣に聞いてくれました。

私は、

“自分で自分の選択肢を選べる人になって欲しい”

そして、その選択をするための準備がきっと今なのだと思います。

それから、本日の授業内容である、

「仕事に必要な能力について」というテーマで自由討論をしてもらいました。

学生の意見を紹介します。

- ▶ 私が思う必要な力は協力する力だと思います。
何事においても一人ではどうしようもないことに出くわしてしまうことがあると思います。そんな時に他の人に助けを求めたり、他の人が困っているときに協力する力が必要だと思います。
- ▶ 私は、コミュニケーション力と創造力だと思う。
なぜなら、仕事は一人でするものではないし、開発では今までにない発想が求められると思うからです。たとえば、周りとのコミュニケーションをしっかりと、協力し合えばし合うほど仕事はかどるだろうし、楽しくなると思う。新製品の開発では、まったく新たな発想を出し、自分だけの意見を持つことができる人が強いと思う。したがって、私はコミュニケーション力と創造力が必要だと思う。
- ▶ 私が考える仕事に必要な能力は周りの環境に適応する能力だ。社会の中には様々な人がいて自分と全く同じ考えを持つ人はほとんどいない。そのような中でうまくやっていくには、周りの状況を理解し適応することが必要になると思う。
- ▶ 仕事に必要な能力はコミュニケーション力と知識量だと思います。
コミュニケーション力は人間関係で必ず必要な力ですし、会社で一人でする仕事なんてほぼないと思うからです。知識量は会社に入ってからなんでも教えてもらうのは大変だし「大学で何を学んできたの」と思われるかもしれないからです。ある程度の知識は必要だと思います。

それぞれ求められている能力の表現は、違うのですが、

“仕事は一人でするものではない” こと、

“自分と他者とは違った考えや文化を持っている” ことをはっきりと伝えてくれています。

この半年間で学んだことが、根付いているんだなぁと実感しました。

そして、これから学生個人の体験と重なり合わせて、考えに深みが増していくだろうと思います。

学生の就職活動が始まるとき、
自分の考えの軸ができているのでは…？
と考えると、今からワクワクします。

「はじめての反論」

今日、やっと反論に入りました。

後期になって、難しくなるなあと思いながらも、楽しみにしていたのは、この“反論”なのではないでしょうか？

みんなの後期の目標にも

「反論ができるようになりたい」と多くの人が書いてくれていました。

反論ができるようになると、何だか力がつきそうだというのは、みんなの理解の中にあるのでしょうか。

さて、実際にやってみてどうでしたか？

まずは5つの型を覚えてもらいました。

当てはめてやってみると、何かしら解決の糸口が見つかるような気がしませんか？

学生の感想には、

- ▶ 今までプリントでなぜ反対意見が大切かを漠然と書いてましたが、今回のディベートによって確かに反対意見が大事のように思いました。自分の意見を相手に反論された時自分が気が付かない点を言われたように思いました。そしてその意見に対してまた自分の意見がその時出ました。今回はそれまででその時思った意見は言えませんでした。その時少しですが自分の中でディベートが面白いように思いました。いつか本格的なディベートがあった時、積極的に意見を発表したいと思います。
- ▶ 反論してみたり、されてみたりして、なるほどと思うことや、そんな考え方があるんだなと反論してみて、初めて分かることもあると感じました。

さて、「反論」というと、

何だか嫌なイメージを持っている学生もいると思います。

「反論される」ことを考えると、自分の主張にケチをつけられるようなイメージを持っていたり、自分が否定されるような気持ちになる人もいるかもしれません。

しかし、そうではないことをこれから実感してもらいたいと思っています。

学生の感想にも、“そんな考え方もあるんだ”とあるように、

反論によって、自分の主張の弱点を教えてもらうことができます。

そう考えると、単に否定するということではなく、意見をぶつけ合って、考えを出し合っている仲間と言えますよね。

どんどん、反論して自分たちの主張をブラッシュアップしてほしいと思います。

「反論 2 回目」

今日は、反論 2 回目でした。

2 人組を作って、一緒に主張、反論を考えて発表してもらいました。

2 人組で一緒に考えた方が、味方がいるような感じがして、やりやすいようです。

自分ひとりよりも、他の人の意見がある方が、より考えが広がるような感じもあるのでしょうか。

さて、学生の様子を見ていると、2 人で知恵を絞って作りあげていくといった感じです。

時間が足りないようで、発表の時間になっても、もっと書きたいというペアも見受けられました。

しかし、社会にでて、時間が悠々と与えられていることはそうありません。

その場で考えて、すぐにこたえなければならない場面も多くあります。

そこで、決められた時間内で考え、発表してもらおうようにしています。

学生の感想には、

- ▶ 今回の講義を受けて思ったことは、反論することで、考えの幅が広がるなと思いました。なぜなら、相手の意見に対して、自分の意見をぶつけることができるからです。今までの授業では、相手の意見を聞いて、そういう考えもあるのかと納得して終わるだけだったけれども、反論することによって自分のその意見に対しての意見をいうことができます。すると、今度は反論を受けた側がさらに意見を出すので、このループによりどんどん意見を出すことができます。こうすることで考える力もどんどんついてくるので、私もどんどん反論して力をつけていきたいです。
- ▶ 初めてやった時と比べて、少しは内容がある反論ができたと思う。
例えば、「こう言ったらこう返してくるだろうなあー」とか考えながら楽しんでいた。
- ▶ 前は一人で反論などを考えてやったが今回は二人一組でやったので考えがすごい楽だった。2 人でやると相手の意見なども聞き入れることができ自分にとって新しい考えが増えてプラスになりました。前回よりも反論が楽しいと思いました。

「反論」というと、嫌なイメージを持っている学生もいたと思いますが、
反論＝否定ではなく、
議論することの面白みが伝わってきていますね。

反論の型に当てはめるのが難しいという声も聞こえてきましたし、
まだまだ使い慣れるには、もう少し時間がかかりそうですが、

人と話すことを楽しみながら，議論スキルを身に付けてもらえたらと思います。

また，学生から反論を伝える際に，“相手に嫌な思いをさせないように伝えることが大事だとわかった”という声も聞かれました。

人とコミュニケーションを取っていく上で，とても大切なことですね。
社会人に近づいているなと思います。

2011.11.10.

「先輩の就職活動エピソード」

学祭も終わり、平常に戻りました。

今朝は、ちょっと冷え込んでいて、久しぶりの1限の授業には、きつかったかもしれませんね。
授業の始まりは、みんな眠たそうでした。

それでも、時間通りに来ているのだから、いいですね。

これから寒くなります。

起きるのがつらい季節になりますが、頑張りましょうね。

さて、今日は、学生がゆったりモード…とはいえ、
内容は、がっつりモードでした。

大学4年生のアンケートに協力してもらって、
4年生の就職活動の話を聞いて、
テキストに入って、比較について勉強して、
反論の復習…と、盛りだくさんでした。

学生に盛りだくさんにしすぎたかなあとと思っている一方で、
学生はついてくるものだなあと実感した日です。

先輩の就職活動の話は、どうでしたか？

まだまだ、先のことで実際の活動をしている訳ではないので、イメージがつきにくい人もいるかもしれませんが、
意外とあっという間に自分の番ですよ。

学生の感想には、

- ▶ 先輩からのお話はとてもためになりました
- ▶ 就職は厳しいものだと感じました
- ▶ あんなに受けて、3社からしか内定をもらえないとか、想像をはるかに超えてました

とありました。

現実には少し近づいたようですね。

みんなが自分の希望のところに進んでほしいといつも思っています。

そのために、意識を高く持って、お互いに刺激しあって欲しいと思っています。

「定義すること・反論練習」

今日は、「定義」についてお話ししました。

言葉の定義を、日ごろは意識せずに生活していると思いますが、人によってその言葉が示す範囲は、違うものです。

議論では、その範囲をはっきりさせることで、より具体的な話ができます。

そして、定義について学んだあと、今日も、主張、反論組み立て、グループで発表しました。

今日も実践です。

さて、学生の関心は、反論に重きが置かれているようです。

反論を教えてから、新しい内容を追加しながらも、主張・反論の組み立て、発表は、毎回行っています。

学生の感想には、

- ▶ 今までしくは反論することは相手の意見ではなく自分の意見を主張するためのもので相手の意見を見を無視するようなものかと思っていたのですが、授業を受けて反論とは相手の意見を含めた上で意見をしたり、相手の意見の足りないと思ったものをつけ加えるためにするものだとなりました。
- ▶ 最近反論の練習をして、初めはただ相手に反論するだけだったけど、今では、ただ反論するだけではなく、相手の意見を聞き入れてなおかつ自分の意見をいい、相手に別の視点からの考え方あることも伝えるつもりで反論しています。まだまだうまくいっていないと思うので、残りの授業でうまくなるように頑張ろうと思います。
- ▶ 後期の半分を終えて、反論を主にやってきましたが、反論というのを具体的にやってきてすごく奥が深いと思いました。今までは反論はただ否定をすると思ってましたが、コミュニケーション論で反論をたくさんやって相手の意見を尊重して反論するようになりました。それに、相手が反論してきてたら、「こう言ったら相手は納得してくれるだろうな」とよく考えて反論するようになりました。
後期の前半の授業は重要な内容が多かったと思います。特に反論する力はこれから社会に出ても、日常生活にでもきつと役に立つことだと思います。これからもこの内容で授業を進めていきたいです。

やはり、反論は、否定するものというイメージがありますね。

また、無視するものと思っていた学生もいました。

しかし、学生の反論の受け止め方に変化が出てきています。

相手の意見に足りないと思ったものに付け加えたり、
相手に別の視点を伝えたり、
そして、相手の意見を尊重するという姿勢が備わってきています。

反論をするようになって、より人の話を聞くようになっているようです。

ただ、伝えたり、伝えられたりというよりは、
相手の意見を尊重しつつ、よりよいものを練り上げていくという
一緒に作り上げていく感覚が身についてきているようです。

人の意見を聞くのが面白い、
一緒に活動するのが楽しい、
自分の意見を納得してもらうのが嬉しい、

そんな人と接する楽しさを味わいつつ、
社会人として議論できるスキルを身に付けてもらいたいと思っています。

これからも楽しみです。

「身近なテーマ」

さて、今日は政策論題について話し合いました。

本学は、今年度から「学内全面禁煙」です。

昨年度までは、喫煙コーナーがありましたが、今年度からはすべて撤去し、学内で喫煙することはできません。

もちろん、賛否両論あることでしょう。

そこで、今回の論題は、「学内全面禁煙を分煙に戻すべき」です。

身近なテーマに取り組んでももらいました。

まさに、自分たちの身近なテーマについて考えを深めてもらう機会となります。

ものごとは、議論によって決まっていくのですから、現実に近いですね。

学生の感想には、

- ▶ 今回の授業で反論の練習にはもちろんなったんですが論題に対して本当に分煙に戻したほうがいいと思うなと真剣に考えさせられた。人それぞれいろんな考えがあると思うが、一つのことに對して真剣に一人ひとりが考えるのは大切なことだと思った。

様々な価値観に触れて、考えが深まっているようですね。

今まで当たり前になっていた身近なことを、改めて問い直すのは、とても大事ですね。

それから、反論の感想です。

- ▶ 今までを振り返って思うことは、やはり反論が苦手だと思ってます。相手の意見に対して反論して相手を納得させるのが難しい。元々私は、自分の意見を発言するのが苦手な方なので今後は、それをなおしていき反論を得意にしていきたい。そのためにも日常生活でも自分の意見を積極的に発言していきたいです。

苦手と思っているからこそ、ぜひ、反論の型を身に付けてほしいです。

相手に伝わりやすいように話せるようになると、自分の武器になりますよ。

「はじめてのジャッジ」

今日は、コミュニケーション論Ⅱの9日目の授業でした。

だんだんとディベートらしくなってきたところで、反論もコツをつかんでくれているなと思います。

今日は、ジャッジを入れてやってみました。

初の試みだったので、ジャッジの人がやりづらくなったりしないかなあとか、勝敗をつけるのは気にする学生もいるかなあと、私自身、気がかりでした。

しかし、私の心配もあっさりと…。

これが意外にはっきりとジャッジが話をしていました。

何だか学生の成長を感じました。

ジャッジの人は、自分の感じたことを発表できていて、勝敗も決めていました。

勝敗を、言い合える雰囲気が出たことに、とても嬉しくなります。

色々な考え方が出てきて、ジャッジが変われば、また判定も変わってきます。そのような中で議論を進めていくことは、社会で行われているそのものですね。

学生たちが、大学生らしくなっているんだなあ感じました。

次回もジャッジを入れて行うのが楽しみです。

学生の感想には、

- ▶ 今回の授業では反論をした。自分はジャッジをするのは初めてだったので難しかった。特に賛成の人も反対の人も納得できることをいうのでどう判断するかがとても難しかった。しかしいい経験になったのでこれからもいろいろなことを体験してみたいと思った。
- ▶ 今回の授業は反論をした。ジャッジの人に自分の意見を褒められてすこし自信になりました。つぎはジャッジをやりたいです。
- ▶ 今回初めてジャッジつけて反論しましたが、いつもと違って反論をやったという実感がわきました。

学生にとっては、

ジャッジがいる方が燃えるのでしょうか？

次回は、より多くの学生にジャッジを体験してもらいたいと思います。

「総括」

今日は、ディベートの「総括」についてお話ししました。

総括のモデルの①再反論、②整理・比較、③優位性、④結論、の4つの型を教えました。

総括は、自分の伝えたいことを最後にアピールするチャンスです。

今回も、2人ペアで「立論」「反論」「総括」をそれぞれ考えてもらっています。

ひとりだと、どうも心もとないようで、

2人だと、分からないことを補いながら行えるので、学生には好評です。

抵抗感を少なくするためには、ペアで行うのがいいように感じています。

ただし、個別の練習もそろそろ入れるつもりです。

今日は、総括が入ったことと、ジャッジが入ったことで、ぐっとディベートらしくなってきましたね。

総括をまとめるのには、時間が足りないようで、とても一生懸命でした。

短い時間の中で、集中して考えるのは、とてもいいトレーニングだと感じます。

学生の感想には、

- ▶ 今回は前回と違い総括が具体的だったように思います。総括の時自分の優位点を書くところが一番悩む様に思いました。いままで議論でお互い意見を言ったとき自分の相手より優位な点なんて考えてないように思いました。今回総括で改めて議論を冷静に見ることが出来た様に思いました。これは冷静にどちらが良いか判断するのに、とても良いものだと思います。
今回はしっかり総括をしっかりかけなかったように思いました。次回の議論はしっかり総括もしっかり書きたいと思います。
- ▶ 今回の講義も反論をした。初めてジャッジをした。他人の意見を聞いて勝ち負けを決めることには少し抵抗があったが意外と面白かった。そして、自分の意見が勝ったときはうれしかった。またやりたいと思った。
- ▶ 初めてジャッジしたけど楽しかった。自分が反論するならこうするなあみたいなことも考えたりしました。

総括が、難しいという声も聞かれました。

まずは、自分の意見と相手の意見を整理できるようになるために、総括の型をしっかりと頭に入れて、書いて整理できるようになってください。

ただ、一番大事なのは、“自分が何を伝えたいのか”。

この議論を通して、自分の言いたかったことを伝えると考えてくださいね。

それから、ジャッジについては、意外と面白く思っているようです。

賛成側と反対側だけでなく、第3者が入ったことで、より社会に近い構造になってきていると思います。

2011.12.15.

「個人戦」

今日は、個人戦にしてみました。

今まで、ペアで考えさせていたので、
学生は、「えっ！？」というリアクションでしたが。

でも、「個人戦だよ」と言うと、少しさみしそうに、
ただ、現実はさっと受け入れてました。

実は、年明けからは、ディベート大会として、チームを組んで行ってもらいます。
チームでは、立論・反論・総括を一人ひとつ担当します。
その予行練習という感じです。

さて、
今日の個人戦は、自分ひとりですべてを考えないといけないので、とても悩んでいました。
そして、まとめるスピードには個人差があったように思います。
それぞれが一生懸命取り組んでいたように感じます。

学生が“う～ん”と唸りながらも絞りだしている感じ、
とても大事ですね。

今まさに、伸びている瞬間です。
年明けには、ディベート大会を行います。

今日は論題を提示しましたので、必要な資料を集めておいてください。
この作業によって、議論の質が変わってきます。
しっかり準備をして、自信を持ってディベート大会に臨んでほしいと思います。

楽しみにしておいてくださいね。
いい冬休みを。

「年明け初日：ディベート大会予選①」

今日は、大学の講義自体も、年明け初日。
その1限。

帰省していた学生も多いだろうな、
ちゃんと戻ってきているかな、

年明けすぐには、学生のエンジンがかからないんじゃないか、
準備時間が必要なのではないか…とこちらは心配していたのですが、
あまり心配はいらなかったようです。

前々から、「ディベート大会するよ」ということは話してきましたし、資料の準備も話していたので、
学生の方が「やるぞ」という雰囲気になっていました。

この「やるんだ」「始まるんだ」という雰囲気って大事ですね。
少しの緊張感と、少しワクワクした気持ちとが入り交ざっていて、自然と進む感じがしました。

これは、だらだらしてはいけないな。
と、思いました。
せっかく準備をしてきた学生たちが、がっかりしてしまいます。

ですから、重要なところだけ確認をして、
予定通り、ディベート大会に入りました。

緊張している学生もいましたが、
気持ちの準備ができていると、
よしっ！と、
腹をくくる感じで取り組んでいたように思います。

あらかじめ、予習用のプリントを渡していたので、それに調べたことをしっかりと書いてきて見直して
いる学生が、クラスをリードしてくれている感じです。

予習があまりできていなかった学生は、
できている学生を見て、
ちょっとドキッとしている感じです。
実践で学ぶことを実感しているようでした。

さて、その実践について。

学生の感想には、

- ▶ 数字を出すことによってより説得力が増すことを実感できた、総括をしたがみんなの話をしっかり聞いていないと考えるのが難しいと思った。班のメンバーにデータは頼ってばかりだったので、次は自分で調べてきたい。
- ▶ 資料として用意していたものが、少し内容が薄すぎたから、計画(プラン)を今週はしっかり練っておきたいと思いました。
- ▶ 今回、討論をしてみて今回は冬休みを使って情報をあつめていたのでより内容のこい討論ができたと思います。やっぱりいい討論をするためには情報がたくさん必要だなとおもいました。
- ▶ 今回はディベート大会の予選を行い、今までの授業の集大成という感じだった。ディベートでは例に具体的な数字を入れることでジャッジを納得させる主張ができていたと思う。反論、総括は短い時間で意見をまとめきれない部分もあったけれど自分なりにいい意見を言えたと思う。今度もジャッジを納得させる発表をして決勝に残りたいと思う。

ディベートを実践してみて、

事前準備の大切さを実感した学生は多かったようです。

準備ができているかできていないかは、主張の説得力に影響するのはもちろんですが、伝え方にも現れます。

どのように立っているか、

どのような声色や速さで話しているか、

どのような視線を送っているか、

事前準備ができている人は、自信がそれぞれに現れると感じます。

決勝に残りたい！と密かに思ってくれている学生も結構いるようで嬉しくなります。

学生それぞれに頑張ってもらいたいと心から応援しています。

「ディベート大会予選②」

これまでのディベート練習では、時間が来てもすぐに前に出られない学生がいたのですが、今は違います。

すくっと立って発表する姿を見ていると、前期からの成長を感じます。

今まで、「人前で話す」ことを明らかに嫌がっていた学生が多かったです。

今でも、得意と思っている学生は少ないとは思いますが、

自分の役割を果たすために、

できるようになった自分を感じるために、

前に立って話すことができるようになってきました。

学生の感想には、

- ▶ 今回は、ディベートの予選二回目だった。前回同様、調べていたデータを有効に使用できたと思う。前は、主張、反駁、総括のつながりがいまいちだったが、今回よくつなげることができたのでよかった。
- ▶ データは強いです。データあるだけで全然違いました。やっぱりちゃんとした数値があると安心するし相手も反論しづらそうです。今回は2回目ということであまり緊張もせずに自然と立論と総括できたかと思います。決勝にいけるかどうかはわかりませんが、いけたらがんばりたいと思います。
- ▶ 今回は勝負で相手チームに勝つことが出来ました。そのとき少しですが嬉しいと私は思いました。次回、決勝に残れるかはわかりませんが、出れるとしたら次回もきちんと皆を納得意見を発表し勝ちたいなと思います。

実践すると、学生も感じ方が違いますね。

データがあると説得力が増す、ということも、実践してみてより実感できたようです。

「勝ちたい」「決勝に残りたい」と感じてくれているのも、ディベートに手ごたえを感じてくれているからでしょうね。

さて、次回は試験です。

こちらも頑張ってくださいね。

2012.1.19.

「定期試験」

今日は試験でした。

論述となると…どれくらい書けるでしょうか。

分量は結構ありますので、気になるところです。

これもあまり心配しすぎず、楽しみにしようと思います。

「コミュニケーション論Ⅱ 最後の授業」

今日は、ディベート大会決勝戦です。

決勝に勝ち上がったチームの試合を他の全員でジャッジをします。

前回の学生の感想に、

- ▶ 次回の決勝戦までたどり着けることはできなかった。したがって今回はジャッジの担当となった。決勝戦まで行ったクラスメイトが気持ちよくディベートできるようにしっかりと聞くようにしたい。

“決勝戦にいった学生が気持ちよくディベートできるように”という配慮のある気持ちが、とても嬉しい記述でした。

ディベートをクラス全体でやっている感じがとてもあります。

決勝戦で対決したグループは、最後までよく頑張っていました。

全員の前となると、緊張したようでしたが、

終わった時の顔がすがすがしく、笑顔で終われました。

やりきってくれたのだと思います。

そして、ジャッジのみんなも、しっかりと聞いていましたね。

評価も真剣に考えていました。

私は、学生の成長を見るのがとても好きです。

“自分がどれくらい成長したか分からない”と思っている学生は、多いようです。

しかし、大学生の柔軟性と伸び率は、目を見張るものがあります。

自分のものとして、ずっと自分の中に入った瞬間、

“わかった！”と、すぐに使いこなしてしまいます。

そこに行きつくまでの時間は、人それぞれで、

すぐにという学生もいれば、ゆっくりと時間をかける学生もいますが、

すっとんと落ちてしまえば、こっちのものです。

自分は苦手と決めつけずに、やり続けてくださいね。

自分でも“成長した”と感じる瞬間が必ず来ますから。

著者紹介

中野 美香

福岡工業大学工学部電気工学科 助教。

九州大学大学院比較社会文化学府国際社会文化専攻博士後期課程修了。博士（比較社会文化）。

知の基盤となる領域横断的な人間の思考の発達について、（１）大学生・大学院生（１８から３０才くらいまでの時期）の発達段階、（２）他者との相互作用による思考過程の影響、（３）学習が最適化される学習環境づくり、（４）これらの教育に関するプログラム・カリキュラム開発、について研究を行っている。近年は議論における思考と表現のスキルに注目し、工学教育の手法の開発に従事。近著『議論能力の熟達化プロセスに基づいた指導法の提案』ナカニシヤ出版（２０１１）。

（プログラム全体の教育設計および「１指導ガイドライン」開発担当）

nakano@fit.ac.jp

宮本 知加子

福岡工業大学FD推進機構特任教員。臨床心理士。

大学卒業後、通信制高校の教諭となり、国語科を担当。不登校クラスを担当し、不登校に悩む生徒・保護者に寄り添ううちに、臨床心理学を学ぶ必要性を感じる。その後、九州大学大学院人間環境学府実践臨床心理学専攻専門職学位課程修了。スクールカウンセラー、発達教育センターでの教育相談員を務め、不登校や発達障害に関する相談に携わる。また、特定非営利活動法人「九州大学こころとそだちの相談室」と福岡市の共働事業の１つである心理教育を市内の小中学校にて担当。福岡工業大学での『プレゼンテーション』『コミュニケーション論Ⅱ』の非常勤講師を経て、現職。

（「１指導ガイドライン」「２授業日記」執筆担当）

c-miyamoto@fit.ac.jp